【表紙】
烈士村上喜剣　全四巻

【表紙　裏】

【1頁】
烈士村上喜剣
全四巻　四三四米

台湾総督府
Q第八四七号
検閲済
自昭和一八年一〇月一五日
至昭和二一年一〇月一四日

障害ナシ

【2頁】

【3頁】
烈士村上喜剣　全四巻

【4頁】
〜梗概〜
親友の仇、渡辺郁之進を求めて旅立った義人、村上喜剣□□
中突風の様に起こった浅野事件を耳にする．喜剣は大
石内蔵之助に復讐の念なき事を知って痛罵を□へ□□□
再び仇を求めて旅立った．
その後仇を討って光枝に再会した彼は光枝から仇は赤松大
九郎であり郁之進は自分の兄であると聞かされ大きな□□□
喜剣は光枝に討たれんとす．その時赤穂浪士大石□□
四十七士は立派に仇吉良上野介を討って東懐を道□□事
を知りかつては大石に犬畜生と罵った彼は人生□大きな
□□□失策に喜剣の魂はこれ以上生き永らえるには合わず
淋し過ぎた
〜おはり〜

【５頁】
―字幕―
申請前　四字加入　野田商舎
１．烈士村上喜剣
２．それは元禄十三年の秋も漸く更けようとする頃―□も薩摩
　鹿児島の城下はづれの出来事であった．
３．父の仇、赤松大九郎覚悟！！
４．渡辺郁之進・・・・・・其の妹弥生
５．村上喜剣と山形兵馬は兄弟を誓った友であった
６．如何しても今夜は帰るか？
７．大分降ってゐる様だから寝て行け
８．おい刀の音か？
９．卑怯者！逃げるか！
１０．今更討たるるのが恐ろしいのか？
１１．待てっ・・・・・・・・

【６頁】
１２．兵馬・・・・・・・兵馬．
１３．兵馬・・・仇は必ず討ってやるぞ・・・・・・
１４．かつて刎頚を契った友の悉惨なる最期を見た時義に鳴る
　喜剣の血は燃えて・・・・・・せめても亡き友の霊を慰めんものと．
１５．かくて日を重ねて・・・・・・・
１６．郁之進殿
１７．そうしてた或る日の事
１８．父の仇　覚悟．
１９．返り討ちだ！
２０．御女中助太刀申す
２１．拙者は村上喜剣と申す浪人者
２２．その夜．
２３．まだ貴女の御姓名を存ざめが・・・・・・

【７頁】
２４．あの立花光枝と申します．
２５．然し大望を果すまではと思ふ心から．ふと偽った己が名前が
　今では弥生にとって大きな心の重荷であった．

２６．突風の如く捲き起った赤穂城主浅野内匠頭の殿中刃傷事件は頻癌し切った当吱の武士道に激しい衝動を投げかけ御家老大石内蔵之助の去勢は武士達の注目の的となった．
２７．赤穂の城も愈々あけ渡しだとの事でござる
２８．大石殿も存お生命が欲しいと見ゆるな．
２９．拙者は大石殿がそんな軽落な人だとは思ひ申さぬ
３０．大石殿が侍なら城を枕に主君の無念を晴らすべきだ！
３１．だが主家再興の望みを断つ愚を探るよりも先づ大学殿を盛りたるが主君への忠では御座るまいか．
３２．それは申受ない望みだ―事は殿中の刃傷沙汰！御家

【８頁】

再興の望み御座らぬ．
３３．愈々それが絶望なら大石殿は復讐の旗を挙げるに相違ない．
３４．そこは英才を記はれた大石殿だ！総ては胸三寸の中にござろう．

第二巻

１．□□殿が何と云はれても大石は確かに不忠者だ・・・腰抜けだ・・・・・・
２．腰抜けを腰抜けと云ったが悪いか・・・・・・・
３．貴様達に復讐の苦哀が判るものか・・・
４．義人喜剣の魂は大石内蔵之助の心に深い共鳴を持って居た
５．かくて友の仇を尋ね京洛の地に足を踏み入れたのは元禄十五年の□□四月の初であった

【９頁】

６．その頃主家再興の望みを失った大石内蔵之助は・・・・・・・
７．武士に向って無礼な奴手討ちにいたすぞ！
８．畏き根を呑んで切腹した・・・・主君内匠頭の御無念を晴そうための忍従であると思へば貴剣には余りにも内蔵之助の心が痛ましかった．
９．お前さんなんかすっこんでろよ俺達ああの犬侍の奴の性根をたたき直してやるのだ
１０．党様達の□眼に大石臣の意□が判るか！
１１．大石殿に謝まれ、いやだと申さば命がないぞ！
１２．拙者、村上喜剣と申す不骨者・・・予々真公の胸中御察

し申して依ればこそ御迷惑を顧みず只今の仕儀平に御□
赦を御乞ひ申す
13. 拙者とても尊公と同じ志に□□いたす者乞くは唯一言なりと

【10頁】
お言葉を御助け下され.
14. 恐れ入った御心底・・・・かかる人だかりの真中で術なきことを
御□ひ申した拙者を御赦し下され
15. 然らば御覚悟の程を拝見いたしお別れ申す
16. 太刀は主君に例へたもの・・・御家□□の大石殿の太刀が□
錆びついてゐるのこそ内蔵之助殿の真の心を現はしたものだ・・・
17. 驚くな此の小刀こそ大石殿の御覚悟を誇るものだ！
輝きを見て今迄の怨を晴らせ！
18. やい犬侍―今の今までその方は天晴れ智勇すぐれた忠
臣とのみ思ひしに此の有様は何事だ！
19. 貴様は犬だ畜生だ！！世には禄もなき他人の仇ををすら討
つ者もあるに恨みを呑んで切腹し御主君の仇を討たふ
ともせず・・・

【11頁】
20. 貴様如きを忠臣と信じ町人共を□りつけ、犬侍に謝まれと云
ったが今更恥かしいわ・・・・・・
21. 立て・・・・起って尋常に勝負しろ・・・・不忠者の素首をたた
き落してやる.
22. 無礼な奴！浪人すればとて大石内蔵之助許さぬぞ！
23. 尋常の・・・・エイ勝負は好まぬ迷惑ぢゃ、
24. 拙者は命が欲しいのだ！御気に召さずば如何なりと勝手に
召され、
25. 貴様如き打つは刀の汚れ. 犬には犬らしく物をつかわず・・・・
26. 吉良家の間諜
27. これで命が助かるなら有難く頂戴いたす.
28. 村上氏御享意の程は・・・・
29. 裏切られた憤りに前後の考へもなく公衆の面前で内蔵之助を

【12頁】
置りはしたものの喜剣の心は余りにも物寂しかった

３０．江戸に絶望した喜剣は仇を求めて契た□を仙台へと下いてゐた．

第二巻　終

第三巻

１．仇討だ・・・・仇討だ・・・・

２．仇討だ・・・・仇討だ・・・・

３．御武家様！助けてやって下せい、今病ひ上りのお侍が仇に討たれそうになって居るんです．

４．病上がりの若侍が可愛相だから・・・・・・

５．御武家、助太刀申す！

６．既に命も危ふい所お助勢下されし御恩の程は死すとも忘れは致しませぬ．

【１３頁】

７．怪我がなくて・・・・・・

８．拙者は米沢藩の臣にて渡辺郁之進と申するの・・・・・・

９．そなたはまこと渡辺郁之進と申さるるか？

１０．では、これに見覚えがあらう

１１．これは如何して貴殿が！

１２．友の仇渡辺郁之進尋常に勝負いたせ！

１３．今日が日まで三年の永き艱難も皆貴様のためだ・・・・

１４．お待ち下さい―それは何かの間違ひだ！

１５．今になって何の逃げ言．知らぬとは云はさぬぞ．

１６．違ふ・・・・・・それは考へ違ひだ・・・・

１７．兵馬・・・・貴様の仇は討ってやったぞ

１８．かくて友の仇を討ち踏む足も軽く一先づ江戸なる薩摩屋□に立帰へった．喜剣は晴れの栄誉を人々の熱狂的な賞讃に迎へられある料亭に・・・・

【１４頁】

１９．ただ盃を拙者に下されせめても貴殿の御義心にあやかりたいと存ず・・・

２０．たゞ友が友になすべきを遂げたまでゞござる

２１．光枝殿―お久しうございました．

２２．それにしても此の様は・・・・・・

２３．してそなた仇にはお会ひなされるか？
２４．武運拙なくまだ会へまさぬ．
２５．何事も六丁抱が第一ぢゃ石にも立つ矢の例へもござる．
２６．拙者とても同じ事・・・思ひ出せば三年の憂き艱難の甲斐あって漸く仇を討つ事が出来申した―
２７．仇の仇と仰有るる何？
２８．友を殺して行方も眩ました憎むべき渡辺郁之進と申す浪人者

【１５頁】
２９．兄上はまだ生きてござったのか？
３０．喜剣様―貴方は取返しのつかぬ間違をなされたのです
３１．貴方のお討ちになされたのがまことに渡辺郁之進なら死んだと思った妾の兄でござります．
３２．兄は貴方のお友達を殺した本当の仇ではござりませぬ．
３３．貴方のお友達を殺した本当の仇は妾達兄妹に取って憎むべき仇赤松大九郎と云ふ浪人でございます

第三巻　終

第四巻
１．ではあの時郁之進殿に討たせた浪人者が・・・・
２．兄者の仇村上喜剣神妙に討たれ申さう
３．兄を仇と信じこまればこその事―殊に憎むべき仇をお討ち下された貴方様！

【１６頁】
４．景気よく酒でも飲んでお亡くなりになった皆様の冥途のお旅を賜はししなけりゃあならねえんだ．
５．俺達まで他人からうらやまれて肩身が広い思ひが出来るのもみんな浅野様に出入らてゐたからの事・・・・・・．
６．大石様を初めとして忠義な御方々が上野介の素首をたっき斬った聞いた時には俺はもうまるで手前が仇を様に飛び上ったよ．
７．矢張大石様の様な深い御心はこちとら風情にゃ判らないだ犬畜生だと口惜しまぎれに罵った俺の口の裂けねえのが不思議だよ．
８．大石殿が仇・・・・・・仇を討ったと・・・・・・

９．おい・・・・・・云って呉れそれは本当か．
１０．お前達は斯んなに江戸中の者が騒いでゐるのを知らねえのかい

【１７頁】
１１．去年の暮も十四日だ長い車苦も積る雪の夜大石様は初め四十七士の方々がお亡なりになった殿様の御無念晴らしをした事は其の子供でも知ってゐるんですよ．
１２．嘘だと思へは泉岳寺へ行って見なせえ．
１３．大石殿・・・・・
１４．拙者の罰をお赦し下され・・・・・
１５．義人村上喜剣の最後は余りにも痛ましかったしかし彼の死は赤穂浪人の義挙と共に一吾の人心に激しい煽情を投げかけた．

―完―　台湾総督府

【データ採録者…天野知行】【校正…森田健嗣】